

## 院内BLS講習会反復講習の有効性

—受講前後の理解度の推移より—

ACLSチーム

○ 岡林 万喜 高橋 由美 青野 愛里  
松本 貴代 田内 千草

### 【はじめに】

近年、EBMに基づいた心肺蘇生法としてACLS・BLSが普及してきた。当看護部でも病棟看護師を対象にBLS講習会（以下講習会）を開催している。現在までに約150名が講習会を受講、うち10名は1回目受講後9ヶ月で再度受講している。講習会前後のアンケート調査において「講習会を受講することにより各スキルの理解度は高まった」との結果が得られているが、理解度の継続性については確認できていない。そこで今回、講習会を2回受講した看護師の2回の講習会受講前後の理解度の推移をみることによって反復講習の効果について検討したので報告する。

### 【研究目的】

2回の講習会受講前後の理解度を比較することにより、①講習会の効果、②1回目の受講後の理解度の継続性、③反復講習による効果を検討し、①～③より反復講習の効果について検討することを目的とする。

### 【研究方法】

対象：講習会を2回受講した看護師10名。

データ収集方法：講習会前後に9項目のスキルについて「確実にできる」「できる」「できない」の3段階での自己評価を記入してもらい、その場で回収した。

分析方法：データは「確実にできる」と「できる」・「できない」の2群に分け、両者の比率の推移を9項目のスキルごとに検討した。

倫理的配慮：アンケート用紙は無記名とし、データは本研究の目的以外に使用しないことを説明した。

### 【結果】

#### 1. 講習会による効果

①「人工呼吸」「頸動脈の脈の確認」以外の項目において理解度は高まった。

②「人工呼吸」を確実にできると回答したものはなかった。

2. 1回目の受講後の理解度の継続性：2回目受講前の理解度は全項目において1回目の受講後よりも低下した。

3. 反復講習による効果：「呼吸の有無の確認」以外の項目において1回目の受講後より2回目の受講後の理解度が高まった。

### 【考察】

「呼吸の有無の確認」は反復講習後理解度が低下しており、「脈の確認」と同様、微弱な呼吸や脈を確実に確認できるという自信を得ることは、人形を使った講習では困難と考えられた。他の項目では2回目の講習後に理解度が高まり反復講習の効果が認められた。また、「頸動脈の脈拍の確認」「心マッサージ」「人工呼吸」「心マッサージと人工呼吸が順序よく出来る」は理解度が低い傾向にあり、講習の時間配分や使用器材の工夫が必要と考えられた。一方、2回目の講習前は全ての項目において理解度が低下していたことから、反復講習は少なくとも9ヶ月以内に行なうことが望ましい。

〔平成17年10月13日・14日 第7回日本救急看護学会学術集会（札幌）にて口頭発表〕